

特別史跡 三内丸山遺跡
年報 20

特別史跡 三内丸山遺跡
年 報

— 20 —

平成二十八年度

平成28年度

青森県教育委員会

青森県教育委員会

特別史跡 三内丸山遺跡
年 報

— 20 —

平成28年度

青森県教育委員会

序

特別史跡三内丸山遺跡は、縄文時代における集落の全体像や生活、自然環境等とその変遷を具体的に解明することができる、日本を代表する縄文遺跡と評価され、平成12年11月に特別史跡に指定されました。さらに、平成26年3月には水場遺構を含む約8,500㎡が追加指定されました。また、平成15年5月には、三内丸山遺跡の出土品1,958点が重要文化財に指定されています。

青森県は、三内丸山遺跡を貴重な歴史的遺産として保存するとともに、平成6年度から遺跡の整備と一般公開を行い、多くの方々に三内丸山遺跡を見学していただきました。

平成27年度は、第39次発掘調査を行い、第36～39次調査の発掘調査報告書を刊行しました。また、最新情報展、企画展、縄文教室、季節毎の縄文まつり、三内丸山遺跡報告会などを開催し、三内丸山遺跡を中心とした縄文文化の魅力と重要性を国内外に広く発信してまいりました。

この年報は、平成27年度の三内丸山遺跡の整備・調査研究・活用事業の概要についてまとめたものです。本書が三内丸山遺跡の理解や埋蔵文化財の保護と研究に寄与できれば幸いです。

刊行にあたり、三内丸山遺跡の保護・活用に御支援、御指導を賜りました皆様に対し深く感謝申し上げますとともに、今後ともより一層の御尽力をお願い申し上げます。

平成29年3月

青森県教育委員会

教育長 中村 充



発掘調査現地説明会



縄文体験 鹿の角で釣り針を作ろう

目 次

第1 平成 27 年度の事業について

1 整備状況	
(1) 平成27年度の整備の内容	1
2 調査研究	
(1) 三内丸山遺跡調査	1
(2) 関連遺跡調査	3
(3) 遺跡環境調査	4
(4) 三内丸山遺跡発掘調査委員会	4
(5) 特別研究推進事業	5
3 普及啓発	
(1) シンポジウム等	6
(2) 企画展及び最新情報展	7
(3) 三内丸山縄文教室	7
(4) 三内丸山遺跡魅力情報発信強化事業	11
(5) 印刷物の発行	11
(6) 資料貸出	12
(7) 講演会等	13
(8) 縄文まつり	14

第2 平成 27 年度の見学者動向について	16
-----------------------	----

第3 研究ノート

1 「盛土や捨て場と土坑墓や埋設土器との関係に関する一考察－青森県の事例を中心に－」 濱松 優介（青森県教育庁文化財保護課）	19
2 「ミニチュア化された模倣品－三内丸山遺跡の棒状土製品を中心として－」 岩田 安之（青森県教育庁文化財保護課）	29

第4 特別研究推進事業成果概要報告

1 共同研究「三内丸山遺跡の集落景観の復原と図像化」 研究代表者：辻 誠一郎（東京大学大学院） 研究協力者：早川 裕弐・安芸 早穂子・吉川 昌伸・吉川 純子・植田 弥生 ・鈴木 茂・安 昭炫・一木 絵里・安室 一	36
2 個人研究「北陸系石材の三内丸山遺跡への波及の研究」 中村 由克（明治大学黒耀石研究センター）	52
3 個人研究「三内丸山遺跡出土土器付着炭化物の炭素・窒素安定同位体比分析」 青森県教育庁文化財保護課 三内丸山遺跡保存活用推進室	64

第5 日誌抄録	67
---------	----

第1 平成27年度の事業について

1 整備状況

(1) 平成27年度の整備の内容

公開遺構の整備

平成7年度以降の三内丸山遺跡の公開に伴い、劣化が進んだ箇所については修復・補充等の保存処理を継続的に行っている。平成27年度は北盛土について実施した。作業内容については以下の

とおりである。

○北盛土…遺構面に発生していたカビや、土器に付着した汚れなどを除去する清掃作業を行った後、防カビ処理を行った。また、経年劣化により遺構面の剥落のおそれがある箇所については、遺構面の強化・補強を実施した。

2 調査研究

(1) 三内丸山遺跡調査

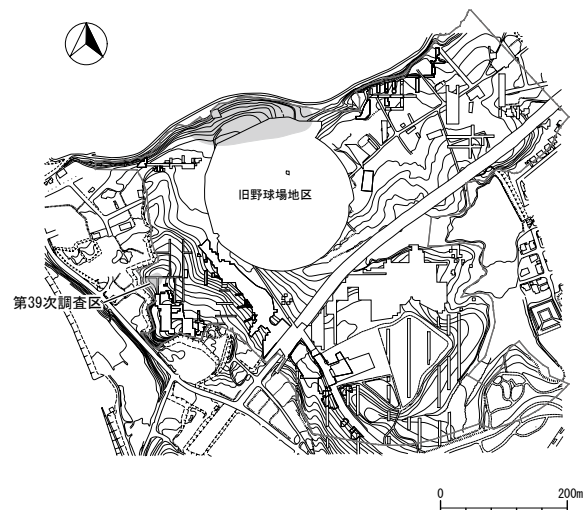
三内丸山遺跡の全体像や集落構造の変遷の解明や保存・活用、整備計画の策定・推進のための資料収集を目的とした内容確認調査を継続して行っている。

○第39次発掘調査

平成27年度は、遺跡西部に位置する西盛土の西側の調査を行った。主な調査目的は下記のとおりである。

- ①平成26年度に確認された大規模な溝状遺構の北東側を精査し、その規模・形状を把握する。
- ②平成26年度の調査において、考古学的所見と年代測定値に矛盾が見られた、溝状遺構底面で確認された土坑墓（第1451号土坑）の年代を検討する。
- ③溝状遺構の上位で確認された焼失住居の可能性が高い第797号竪穴建物跡の平面形や上部構造を検討する。

- ・調査期間：平成27年6月10日～9月18日
- ・調査面積：170㎡
- ・主な出土遺物：土器、石器、土・石製品等段ボ

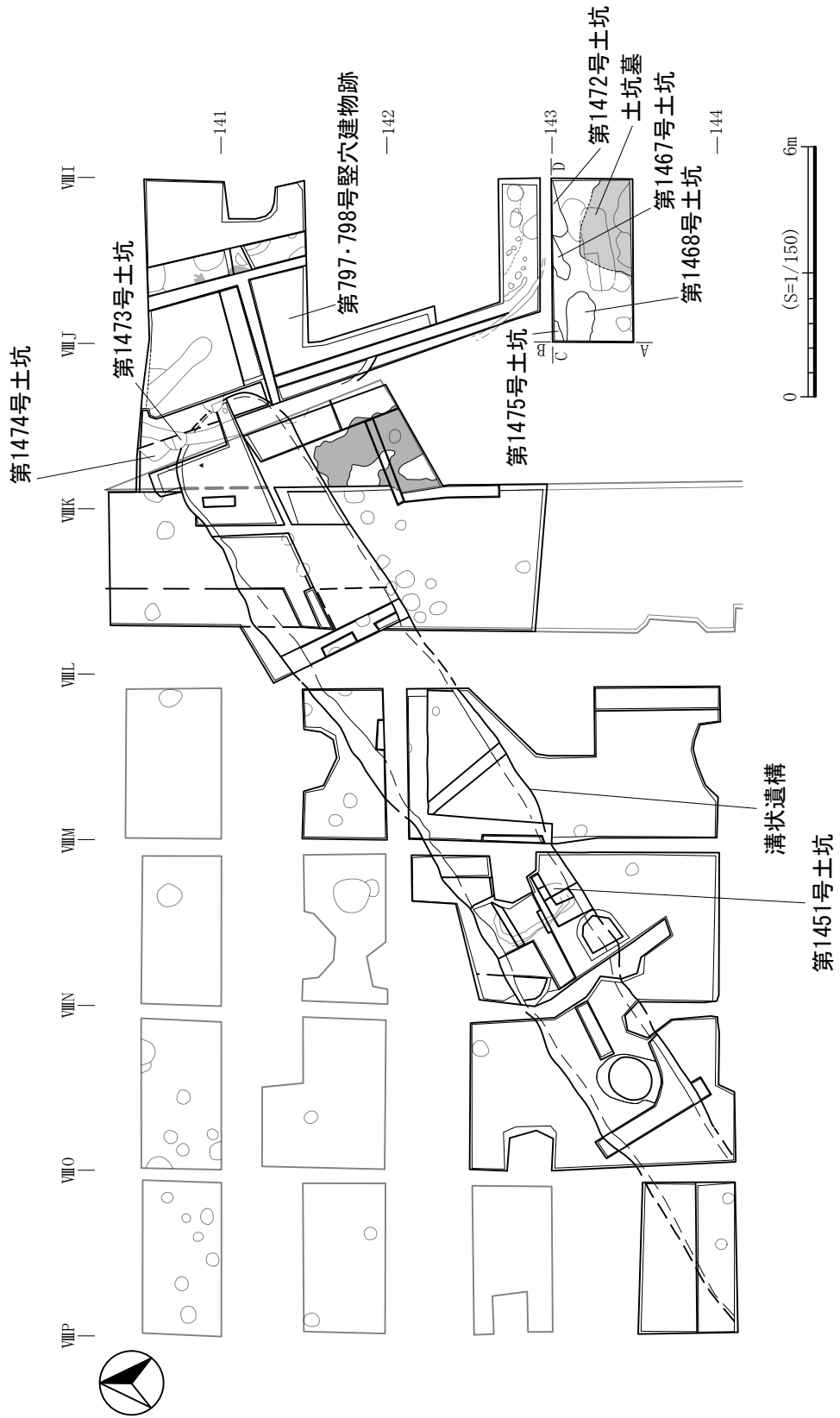


第39次調査区の位置

ル箱30箱

・調査成果

①について…溝状遺構の北東側を精査した結果、北東側で弧状に閉じ、現時点での全長は約25mとなることがわかった。また、北東端では第797・798号竪穴建物跡、第1473・1474号土坑と重複し、平成26年度の調査結果と矛盾しない、縄文時代前期末葉頃という年代観が得られた。しかし、溝状遺構の用途や機能については不明であり、今後類例の増加を待ち、さらに検討を行う



第39次調査区遺構配置図



溝状遺構北東端の土層断面

必要がある。

②について…壁面を精査した結果、溝状遺構の埋没後に構築されたことが判明した。堆積土上部が攪乱を受けていることが、平面形を確認できなかった一因と思われる。構築時期を示す遺物は出土していないが、平成26年度に実施した放射性炭素年代測定の結果（4350～4135yrBP）から、縄文時代中期中葉～末葉と考えられる。

③について…第797号竪穴建物跡は、焼土や炭化材が多数確認され、焼失住居である可能性が高まった。溝状遺構の一部を壊して構築されており、堆積土から出土した土器は円筒上層b式が多数を占め、出土した炭化材の放射性炭素年代測定結果とも調和的であることから、帰属時期は、縄文時代前期末葉～中期前葉頃と考えられる。また、後述する第798号竪穴建物跡より新しい。上部構造については、明確に把握することはできなかったが、一部では炭化材の方向が中心部分に向かうことが見てとれる。

また、新たに竪穴建物跡1棟、土坑墓1基、土坑9基、ピット18基を確認した。

第798号竪穴建物跡は、第797号竪穴建物跡の平面形を把握するために拡張したトレンチ内（ⅧI-142付近）で確認した。溝状遺構・第797号竪穴建物跡と重複し、溝状遺構より新しく、第797号竪穴建物跡より古い。堆積土からは中期前葉の遺物が主に出土していることと遺構の重

複関係から、縄文時代前期末葉（円筒下層d式期）～中期前葉（円筒上層b式期）頃と考えられる。壁溝を持つ竪穴建物跡で、トレンチ調査のため平面形は把握していないが、大型竪穴建物跡の可能性はある。



第798号竪穴建物跡

土坑墓は、竪穴建物跡の平面形を把握するために設定したトレンチ（ⅧI-143）内で短軸約0.7m、長軸約2.1mの長楕円形の落ち込みを確認した。遺構下部の状況等を把握するために、長短軸上に土層観察用の畦を残して半分を精査した。その結果、底面は平坦で、壁溝が巡ることがわかった。さらに、道路跡に隣接して構築されていることなどから、土坑墓とした。これにより、道路跡東側の土坑墓列がⅧI-143付近まで延長することが確認された。

(2) 関連遺跡調査

この調査は、県内外の発掘調査事例や遺跡の整備・活用事例を調査し、それらの情報を得ることにより、三内丸山遺跡の学術的解明を進めていくとともに、遺跡間のネットワーク形成に向けた交流を目指すものである。

平成27年度は、平成26年度の第38次発掘調査で確認された大型の溝状遺構について、類似した遺構が確認されている北海道苫小牧市、千歳市、恵庭市で調査を実施した。

ア 勇武津資料館

北海道苫小牧市に所在する市立の資料館である。昭和57年に調査が行われ、縄文時代の大規模な溝状遺構が確認されている静川遺跡について、調査担当者から遺跡の概要・調査に際して留意した事項について説明を受けた。

静川遺跡の環壕は、機能停止後自然に埋没していることや小単位毎に掘削を行い、それを最終的につなぐという手法で構築されていることなどをご教示いただいた。当遺跡の溝状遺構とは異なる埋没状況を呈しており、遺構の廃絶状況について大変参考になる事例であった。

イ 千歳市埋蔵文化財センター

北海道千歳市に所在する市立の調査組織である。平成2～5年に調査がおこなわれ、縄文時代の大規模な溝状遺構が確認されている丸子山遺跡について、調査担当者から遺跡の概要と調査に際して留意した事項について説明を受けた。

環壕で囲まれた丘陵部からは青竜刀形石器や焼土が確認されているため、儀礼の場として機能していた可能性があること、また、当遺跡例について、南東側で確認されている下層d2式期の竪穴建物跡と何らかの関連があるのではないかとご教示いただいた。

ウ 恵庭市郷土資料館

北海道恵庭市に所在する市立の資料館である。平成26年に調査が行われ、縄文時代の大規模な溝状遺構が確認されている島松Bチャシ跡について、調査担当者から遺跡の概要・調査に際して留意した事項について説明を受けた。地山に通常含まれない礫が堆積土中に多量に含まれ、投石用に丘陵部に運んだ可能性があることや天神山式期（縄文時代中期末葉）の集落立地は特殊であり、防御的な性格を有する可能性があることをご教示いただいた。



島松Bチャシ跡現況

(3) 遺跡環境調査

三内丸山遺跡の長期的保護に向けて、その具体的な対応を検討するための基礎的な資料を得るため、覆屋の室温・湿度等について定期的にデータ収集を行った。

(4) 三内丸山遺跡発掘調査委員会

三内丸山遺跡に関する学術的な解明や継続的な発掘調査計画検討のため、専門家による委員会を平成9年度から設置している。委員の任期は2年であり、平成27年度は年2回の会議を開催した。

・委員長

岡村 道雄（奈良文化財研究所名誉研究員）

・副委員長

西本 豊弘（国立歴史民俗博物館名誉教授）

・委員

鈴木 三男（東北大学名誉教授）

辻 誠一郎（東京大学大学院教授）

小林 克（秋田県埋蔵文化財センター所長）

玉田 芳英（奈良文化財研究所都城発掘調査部長兼考古第一研究室長）

岡田 康博（青森県企画政策部参事（世界文化遺産登録推進室長事務取扱）

平成27年12月28日新たに任命）

○第1回発掘調査委員会（平成27年7月30日）

開催場所：縄文時遊館会議室（以下同じ）

検討内容：今年度の発掘調査について
特別研究推進事業について
総括報告書について



委員による現地指導

○第2回（平成28年3月11日）

検討内容：平成27年度の発掘調査成果について
特別研究推進事業について
平成28年度の発掘調査について
総括報告書について
その他



発掘調査委員会

(5) 特別研究推進事業

三内丸山遺跡の全体像解明と縄文文化の解明を進めるため、平成10年度から行っている。平成27年度は、総合的・学際的研究を展開し、より一層遺跡の全体像の解明と縄文文化に関する研究を進めるため、関連する研究を公募し、研究を委託した。

共同研究は、三内丸山遺跡の全体像解明につながる、学際的な研究である。

個人研究は、「円筒土器文化」または「三内丸山遺跡」に関連する、遺跡、遺構・遺物などを対象とした、個人による研究である。

ア 共同研究

「三内丸山遺跡の集落景観の復原と図像化」

辻 誠一郎（東京大学大学院）

イ 個人研究

「北陸系石材の三内丸山遺跡への波及の研究」

中村 由克（明治大学黒耀石研究センター）

「三内丸山遺跡出土土器付着炭化物の炭素・窒素安定同位体比分析」

青森県教育庁文化財保護課 三内丸山遺跡保存活用推進室

※個人研究1件については、発掘調査委員会に諮り、三内丸山遺跡保存活用推進室が研究を実施した。

3 普及啓発

(1) シンポジウム等

平成 27 年度は遺跡報告会をはじめとした以下の内容を行った。なお世界文化遺産登録推進関連事業については、平成 27 年 11 月に青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室が新設され、縄文遺跡群世界遺産登録推進本部主催事業はそちらに移管されているが、当遺跡との関わりが深いため併せて掲載する。

ア 縄文大祭典宵待ちフォーラム

日時：平成 27 年 8 月 29 日（土）
15：00～17：00

会場：縄文時遊館（縄文シアター）

主催：縄文大祭典実行委員会

テーマ：「さんまるへの伝言」

講師：岡田 康博（青森県教育庁文化財保護課長）

小笠原 雅行

（青森県教育庁文化財保護課）

一町田 工（三内丸山応援隊長）

菊池 正浩（元 NHK プロデューサー）

イ 北海道・北東北の縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラム

日時：平成 28 年 1 月 24 日（土）
14：30～17：30

会場：有楽町朝日ホール

主催：縄文遺跡群世界遺産登録推進本部

講演：「縄文遺跡群の世界的価値

～海外から見た縄文文化～」

サイモン・ケイナー

（セインズベリー日本藝術研究所

考古・文化遺産学センター長）

パネルディスカッション：

「縄文遺跡群の価値と魅力」

サイモン・ケイナー

三村 申吾 青森県知事

（縄文遺跡群世界遺産登録推進本部長）

菊池 徹夫（早稲田大学名誉教授）

講演：「基層文化としての縄文文化」

赤坂 憲雄（学習院大学教授）

報告：「北海道・北東北の縄文遺跡群」

岡田 康博

（青森県企画政策部参事

世界文化遺産登録推進室長事務取扱）

ウ 三内丸山遺跡報告会

日時：平成 28 年 3 月 12 日（土）
13：00～15：15

会場：縄文時遊館（縄文シアター）

主催：青森県教育委員会

内容：

第 1 部 発掘調査成果報告

「平成 27 年度三内丸山遺跡発掘調査成果報告」

青森県教育庁文化財保護課

三内丸山遺跡保存活用推進室

第 2 部 特別研究成果報告

「北陸系石材の三内丸山遺跡への波及の研究」

中村 由克

（明治大学黒耀石研究センター）

「三内丸山遺跡出土土器付着炭化物の炭素・窒素

安定同位体比分析」

青森県教育庁文化財保護課

三内丸山遺跡保存活用推進室

「三内丸山遺跡の集落景観の復原と画像化」

辻 誠一郎

（東京大学大学院）

(2) 企画展及び最新情報展

三内丸山遺跡への理解を促進するため、調査及び研究で明らかとなった最新情報を展示する企画展及び最新情報展を開催した。

ア 「円筒土器文化を探るーデータベースの分析からー」

期間：平成27年9月11日（金）～平成28年3月6日（日）

内容：平成24年度から3年間円筒土器文化総合研究データベース作成を行った。データベースの作成によって判明した円筒土器文化の内容と新たな知見を、トピックスを交えながら分かりやすく紹介した。

イ 「第39次発掘調査最新情報展ー西盛土西側の発掘ー」

期間：平成28年3月12日（土）～平成28年9月4日（日）

内容：新情報展として、平成27年度に実施した第39次調査の出土遺物、調査データを提示し、調査成果を分かりやすく解説した。また、西盛土西側の発掘調査が終了するため、これまでの3年にわたる調査成果も併せて紹介した。



第39次発掘調査最新情報展

(3) 三内丸山縄文教室

三内丸山遺跡では、発掘調査から得られた成果をもとに、縄文時代の生活の一端を体験する「さんまる縄文体験」を平成8年度から実施している。

また、平成21年度から高校生以上の大人向けに、体験と講義をセットにした「さんまる縄文講座」を実施し、平成27年度からは、講義を中心とした「さんまる縄文学講座」を開催している。

ア 「さんまる縄文体験」

平成27年度は5月から11月までの木・土曜日に、1回コースを6回、2回コースを1回の計8回行った。できるだけ縄文時代と同じ材料を使い、より専門性を求めて、外部講師を依頼したものもある。

また実施に当たっては、いずれも三内丸山応援隊の協力を得た。

【1回コース】

(ア) 「黒曜石で矢じりを作ろう」

実施日：平成27年5月16日（土）

内容：黒曜石で矢じりを製作し、弓矢の使用体験を行い、縄文時代の狩猟について理解を深めた。

講師：文化財保護課職員

参加者：23名

(イ) 「縄文アクセサリーを作ろう」

実施日：平成27年6月13日（土）

内容：ベンケイガイの貝輪と粘土のペンダントを製作し、縄文時代の生活や装いについて理解を深めた。

講師：文化財保護課職員

参加者：20名

(ウ) 「発掘調査をしてみよう」

実施日：平成27年7月23日（木）

内容：発掘作業を体験し、目的や方法などについて理解を深めた。

講師：文化財保護課職員

参加者：18名

(エ)「土偶のレプリカを作ろう」

実施日：平成27年8月8日(土)

内容：遺跡から出土した土偶のレプリカを製作し、その意義や資料の取り扱い方について理解を深めた。

講師：堀江 武史 氏(府中工房)

参加者：16名



土偶のレプリカを作ろう

(オ)「鹿の角で釣り針を作ろう」

実施日：平成27年10月3日(土)

内容：鹿角で釣り針を製作し、実際にニジマスを釣り、食料獲得方法について理解を深めた。

講師：文化財保護課職員

参加者：18名

(カ)「縄文料理をしてみよう」

実施日：平成27年11月14日(土)

内容：縄文時代に食べられていたとされるクリ・魚介・野菜・山菜・キノコを調理することを通して、縄文時代の食料について理解を深めた。

講師：文化財保護課職員

参加者：12名

【2回コース】

(ア)「土器と土偶を作って、色をつけよう①」

実施日：平成27年7月11日(土)

内容：遺跡周辺で採取した粘土で土器と板状土偶を作り、製作方法などについて理解を深めた。

講師：誉田 実 氏(陸奥美窯)

参加者：8名



土器と土偶を作って、色をつけよう①

(イ)「土器と土偶を作って、色をつけよう②」

実施日：平成27年9月12日(土)

内容：①で作った土器と土偶を野焼きし、赤鉄鉱と炭を粉砕して得た顔料で彩色して縄文時代の顔料や焼成技法などについて理解を深めた。

講師：文化財保護課職員

参加者：4名

イ 「さんまる縄文学講座」

平成27年度は、5月から11月までの土曜日に、縄文文化と三内丸山遺跡の調査研究成果を中心に、12回の講座を行った。

第1回「地図から考える青森県の縄文時代」

実施日：平成27年5月9日(土)

講師：文化財保護課職員

内容：遺跡分布から考える青森県の縄文社会についての講義を行った。

参加者：35名

第2回「最古の土器を掘る―大平山元遺跡―」

実施日：平成27年5月23日（土）

講師：駒田 透 氏（外ヶ浜町教育委員会）

内容：世界遺産を目差す縄文遺跡群の構成資産のひとつ、大平山元遺跡についての講義を行った。

参加者：38名

第3回「円筒土器文化のまつりの道具」

実施日：平成27年6月6日（土）

講師：文化財保護課職員

内容：円筒土器文化の遺跡から出土するまつりの道具の内容と特徴についての講義を行った。

参加者：45名

第4回「シャコちゃんの故郷―亀ヶ岡遺跡―」

実施日：平成27年6月27日（土）

講師：佐野 忠史 氏（つがる市教育委員会）

内容：世界遺産を目差す縄文遺跡群の構成資産のひとつ、亀ヶ岡遺跡についての講義を行った。

参加者：44名

第5回「縄文人が見た太陽・月・星」

実施日：平成27年7月4日（土）

講師：小田桐 茂良 氏

（元県立高校教諭・天文愛好家）

内容：縄文時代の天体と三内丸山遺跡の関係についての講義を行った。

参加者：39名

第6回「まつりと祈りの場―大森勝山遺跡―」

実施日：平成27年7月25日（土）

講師：岩井 浩介 氏（弘前市教育委員会）

内容：世界遺産を目差す縄文遺跡群の構成資産のひとつ、大森勝山遺跡についての講義を行った。

参加者：35名

第7回「黒曜石の故郷を掘る」

実施日：平成27年8月1日（土）

講師：宮坂 清 氏（下諏訪町教育委員会）

内容：黒曜石について、原産地遺跡の星ヶ塔遺跡を中心に講義を行った。

参加者：40名



さんまる縄文学講座

第8回「縄文時代の溝状遺構」

実施日：平成27年8月22日（土）

講師：文化財保護課職員

内容：第38次調査で確認された溝状遺構についての講義を行った。

参加者：34名

第9回「北東アジアの新石器時代遺跡と縄文遺跡」

実施日：平成27年10月10日（土）

講師：根岸 洋 氏（国際教養大学）

内容：海外新石器時代遺跡との比較から、縄文遺跡群の特質について講義を行った。

参加者：33名

第10回「円筒土器について」

実施日：平成27年10月24日（土）

講師：文化財保護課職員

内容：円筒土器研究のあゆみ、文様・器形の特徴、土器文化の発生などについての講義を行った。

参加者：27名

第11回「日本海側の数少ない貝塚―田小屋野貝塚―」

実施日：平成27年10月31日（土）

講師：佐野 忠史 氏（つがる市教育委員会）

内容：世界遺産を目差す縄文遺跡群の構成資産のひとつ、田小屋野貝塚についての講義を行った。

参加者：34名

第12回「三内丸山遺跡の木材利用と木の道具」

実施日：平成27年11月21日（土）

講師：文化財保護課職員

内容：出土した木製品の種類・樹種から、森林資源利用の特徴についての講義を行った。

参加者：31名

ウ 「ギャラリートーク」

平成25年度から、三内丸山遺跡及び縄文文化について理解を深めてもらうため、ギャラリートークを行っている。平成27年度は、5月から11月までの毎週日曜日に、さんまるミュージアムの展示を活用してテーマごとにギャラリートークを行った。

(ア) 第38次発掘調査最新情報展

実施日：平成27年5月10日

内容：第38次発掘調査で検出された遺構・遺物など、発掘調査の成果を解説した。

参加者：延べ5人

(イ) 調理道具の縄文土器

実施日：平成27年5月17日、6月21日、7月12日、9月20日、11月15日

内容：縄文土器の時期による形態の変化、製作工程、調理道具として使用された痕跡やその他の用途、廃棄方法について解説した。

参加者：延べ40人

(ウ) 森のめぐみと漆の利用

実施日：平成27年5月24日、6月14日、7月19日、9月13日、10月25日

内容：出土した植物遺体から分かった当時の植物質食料、森林資源の内容、クリとウルシの管理・利用について解説した。

参加者：延べ31人

(エ) 土偶と装い

実施日：平成27年5月31日、7月5日、10月4日、11月1日、11月29日

内容：時期による土偶形態の変化や、出土場所・出土部位などを解説した。土偶から推測される髪形や服装、装身具についても解説した。

参加者：延べ45人

(オ) 海を越えてきた石

実施日：平成27年6月7日、6月28日、7月26日

内容：遠く離れた原産地から様々な石材が遺跡に搬入されていることを解説した。ヒスイ・黒曜石については石質や搬入形態等も解説した。

参加者：延べ29人

(カ) 狩りと漁の道具

実施日：平成27年8月23日、10月11日、11月22日

内容：狩猟に使用される石器、漁労に使用される骨角器の種類と用途、時期による形態の変化、製作工程を解説した。

参加者：延べ40人

(キ) 円筒土器文化を探るデータベースの分析から

実施日：平成27年9月27日、10月18日

内容：平成24年度から3年間行った円筒土器データベースの作成によって判明した円筒土器文

化の内容と新たな知見を、トピックスを交えながら解説した。

参加者：延べ7人



ギャラリートーク

(4) 三内丸山遺跡魅力情報発信強化事業

縄文文化と三内丸山遺跡の魅力と価値を国内外に強力に発信し、見学者の増加を図るため、うちわ、チェンジングカードを作成、見学者に配布した。



うちわとチェンジングカード

(5) 印刷物の発行

ア 『特別史跡三内丸山遺跡年報』 19

A 4 76 ページ 500 部発行

平成 26 年度の事業、見学者の動向、特別研究推進事業成果概要報告、日誌抄録。

イ 『青森県埋蔵文化財調査報告書 第 570 集 三内丸山遺跡43－第 36、37、38、39 次調査、北端部予備調査報告書ー』

A 4 335 ページ 370 部発行

平成 24 ～ 27 年度の第 36 ～ 39 次調査で調査を行った、西盛土、西盛土西側、遺跡北端部についての報告。

ウ 「三内丸山通信」第 62 号、第 63 号

A 3 両面刷り 各 3000 部発行

三内丸山遺跡の調査、イベント、トピックスなどの最新情報を掲載したニュースレター。

【第 62 号（平成 27 年 7 月 13 日発行）】

- ・発掘調査進行中！
- ・米大使が訪問！
- ・縄文バーチャル体験
- ・第 38 次調査最新情報展—新発見！溝状遺構—
- ・縄文春まつり開催・夏まつりのお知らせ
- ・さんまるで縄文を学ぼう！
- ・わくわく！どきどき！縄文あおもり！

【第 63 号（平成 27 年 12 月 10 日発行）】

- ・発見！溝状遺構の北東端！
- ・企画展「円筒土器文化を探る」
- ・遺跡見学者 750 万人達成！
- ・新体験！ITガイド導入！
- ・縄文冬祭りのお知らせ
- ・たくさんのイベントを開催しました！

石器 33 点

サ 青森県環境生活部県民生活文化課 「青森県史」掲載写真撮影

平成 28 年 3 月 22 日

磨製石斧 15 点

シ 青森県立美術館「青森 EARTH2015 成果発表展示」展

平成 28 年 3 月 7 日～平成 28 年 3 月 31 日

骨角器 9 点、石器 12 点

(7) 講演会等

三内丸山遺跡に対する理解や関心を深めてもらうため、主催者の依頼に応じた講義を行った。平成 27 年度に行った講義等は、以下の通りである。

なお、11 月 2 日から世界遺産縄文講座は企画政策部世界遺産登録推進室に移管して実施されている。

ア 「郷土の文化を学ぶ」

平成 27 年度初任者研修（小・中学校）

「教職一般研修講座」講義

8 月 6 日

青森県教育委員会

場所：青森県総合学校教育センター

イ 世界遺産縄文講座

6 月 8 日

青森中央短期大学

受講者：大学 1 年生 148 名

講師：文化財保護課職員

場所：青森中央短期大学

6 月 17 日

青森県立五所川原工業高等学校

受講者：高校 1 年生 140 名

講師：文化財保護課職員

場所：青森県立五所川原工業高等学校

7 月 10 日

青森大学オープンカレッジ

受講者：青森大学オープンカレッジ

市民大学受講生 50 名

講師：文化財保護課職員

場所：南部町南部公民館

7 月 30 日

弘前地区中学教育研究会社会科部会

受講者：弘前地区中学校社会科教員 33 名

講師：文化財保護課職員

場所：弘前市立石川中学校

9 月 1 日

あおもり県民カレッジ中南学友会

受講者：学友会員 12 名

講師：弘前市教育委員会岩井埋蔵文化財係長

場所：弘前市民参画センター

9 月 11 日

青森市立堤小学校

受講者：小学 6 年生 71 名

講師：県知事・文化財保護課長

場所：青森市立堤小学校

11 月 9 日

青森市立泉川小学校

受講者：小学 6 年生 100 名

講師：県教育長・世界文化遺産登録推進室長

場所：青森市立泉川小学校

11 月 10 日

十和田市立北園小学校

受講者：小学6年生 100名
講師：文化財保護課職員
場所：十和田市立北園小学校

11月17日

八戸市立種差小学校ほか

受講者：小学5、6年生 19名
保護者、地域住民
講師：文化財保護課職員
場所：八戸市立種差小学校

11月21日

むつ市文化財ボランティアの会

受講者：一般市民 50名
講師：国際教養大学 根岸 洋 助教
場所：北の防人大湊 安渡館

(8) 縄文まつり

平成27年度に行った内容は以下のとおりである。

ア 縄文春祭り

主催：青森県教育庁文化財保護課
実施日：平成27年5月2日～5月5日
内容：さんまる宝さがしウォーキング・春、クイズラリー、縄文パノラマビュー！！、津軽三味線ライブ、縄文ファッションで記念撮影！、みんなでとろう！春の遺跡のフォトギャラリー、縄文生活体験（貝輪づくり、火起こしなど）、縄文ものづくり体験などを開催した。

イ 縄文夏祭り

主催：青森県教育庁文化財保護課
実施日：平成27年8月15日・16日
内容：さんまる宝さがしウォーキング・夏、クイズラリー、縄文パノラマビュー！！、縄文ファッ

ションで記念撮影！、みんなでとろう！夏の遺跡のフォトギャラリー、縄文グッズ作り体験教室、縄文生活体験、こんちゅう教室などを開催した。



縄文パノラマビュー！！の様子

ウ 縄文大祭典

主催：縄文大祭典実行委員会
実施日：平成27年8月29日・30日
内容：発掘調査現地説明会、クイズラリー、縄文パノラマビュー、縄文ワークショップ、縄文宵待ちフォーラム、縄文お月見朗読会とお月見コンサート、縄文グッズ作り体験（組ひも、ミニ土偶など）、紙ひこうきとしゃぼん玉であそぼうなどを開催した。

エ 縄文秋祭り

主催：青森県教育庁文化財保護課
実施日：平成27年11月7日・8日
内容：さんまる宝さがしウォーキング・秋、クイズラリー、縄文パノラマビュー！、縄文ファッションで記念撮影！、縄文の音色！？さんまる演奏会、みんなでとろう！秋の遺跡のフォトギャラリー、縄文ものづくり体験（縄文花びんづくりなど）、草木染め体験教室、トチ餅作り体験などを開催した。

オ 縄文冬祭り

主催：青森県教育庁文化財保護課

実施日：平成28年2月13日・14日

内容：さんまる宝さがしウォーキング・冬、クイズラリー、雪中宝さがし、大型すべり台、雪だるま広場、みんなでとろう！冬の遺跡のフォトギャラリー、縄文ものづくり体験コーナー（飾り玉と貝輪づくりなど）などを開催した。



雪中宝さがしの様子

第2 平成27年度の見学者動向について

(1) 遺跡見学者数及びさんまるミュージアム見学者数

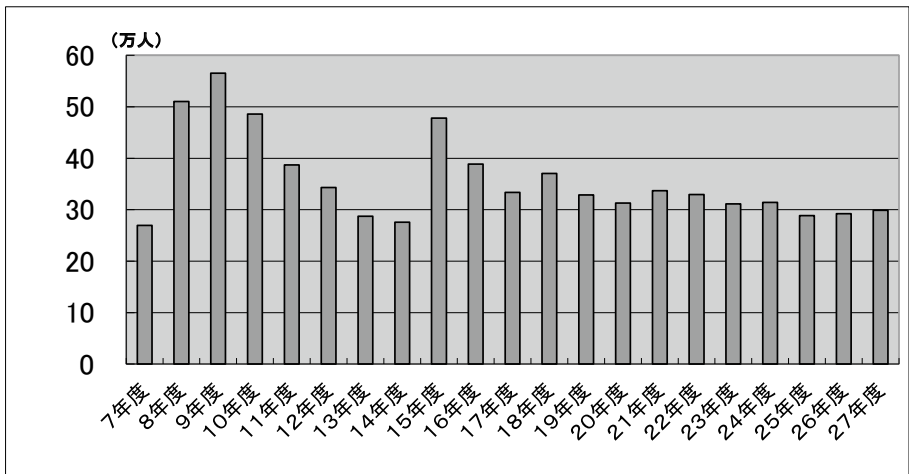
平成27年度の三内丸山遺跡見学者数は299,098人、うち「さんまるミュージアム」(以下「ミュージアム」という。)の見学者数は189,979人である。

月ごとの遺跡見学者数は多い順から8月、9月、5月となっている。これはねぶた祭り、縄文大祭典等のイベントによる観光客の増加が要因であると考えられる。また、12月～3月の見学者数については例年同様夏季に比べ減少がみられる。なお、3月は前年と比べ1,100人ほど増えている

が、北海道新幹線開業効果があったと考えられる。

ミュージアムの見学者数は、遺跡見学者数の63.5%である。冬期間(1～3月)におけるミュージアムの見学者割合が82.6%と高く、夏期間(7～9月)における割合が56.8%と少ない。冬期間割合が高い理由としては、ミュージアムは冬季であっても天候に左右されず見学する人が多いためと考えられる。

年度	見学者数	前年比(%)
平成6年度	61,807	-
7年度	269,597	436.2
8年度	510,337	189.3
9年度	565,376	110.8
10年度	485,917	85.9
11年度	387,021	79.6
12年度	343,050	88.6
13年度	287,182	83.7
14年度	275,551	95.9
15年度	478,165	173.5
16年度	388,652	81.3
17年度	333,583	85.8
18年度	370,447	111.1
19年度	328,815	88.8
20年度	312,964	95.2
21年度	337,035	107.7
22年度	329,374	97.7
23年度	311,513	94.6
24年度	314,235	100.9
25年度	288,617	91.8
26年度	292,267	101.3
27年度	299,098	102.3
計	7,570,603	

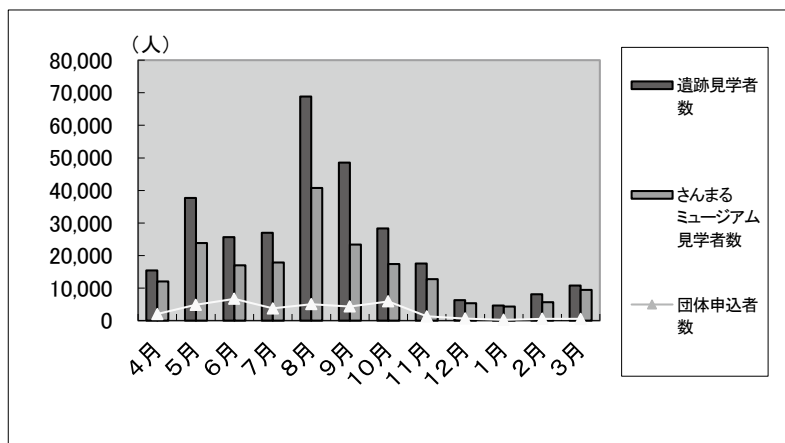


グラフ1 平成27年度までの遺跡見学者数

表1 平成27年度までの遺跡見学者数

月	遺跡見学者数	さんまるミュージアム見学者数	団体申込者数
4月	15,473	12,027	2,048
5月	37,672	23,826	4,873
6月	25,683	17,047	6,724
7月	26,989	17,866	3,783
8月	68,874	40,759	5,082
9月	48,575	23,383	4,383
10月	28,336	17,431	5,926
11月	17,596	12,753	1,335
12月	6,307	5,402	683
1月	4,686	4,332	276
2月	8,121	5,695	602
3月	10,786	9,458	552
計	299,098	189,979	36,267

表2 平成27年度見学者数



グラフ2 平成27年度見学者数

(2) 団体見学者の傾向

団体の見学者数は 36,267 人で、見学者全体に占める割合は 12.1% である。このうち県内の利用は約 31.9% で、小学校の利用が多い。また、県外の利用は約 68.1% で、一般団体の利用が多い。団体見学者が多いのは 6 月、8 月、10 月で、5～6 月は修学旅行などの学校見学者が 72.5% を占める。10 月は学校関係者は少なく一般見学者が多い。8 月は遺跡全体の見学者が最も多いが、団体見学者の割合は少ない。これは、ねぶた祭り

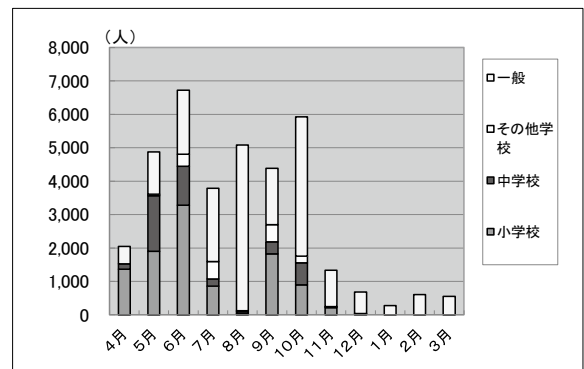
期間中は見学者が集中するため、定時ガイドを増やすことで対応し、団体予約を受け付けていないためである。また、冬季の団体見学者は少なく、学校団体の見学はほとんどない。

修学旅行での利用は、小学校が約 46% を占める。地域別では北海道が多く、修学旅行生全体の約 61% を占める。その他の地域の利用割合は、昨年度と比較すると東北地域の学校が減少している。

また、県内の学校団体では、小学校に比べて中学校の利用は少ない。

月	小学校		中学校		その他学校		一般		総計	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	団体数	人数	団体数	人数
4月	28	1,365	4	159	0	0	37	524	69	2,048
5月	39	1,903	20	1,662	2	45	69	1,263	130	4,873
6月	64	3,277	8	1,164	5	362	86	1,921	163	6,724
7月	18	855	3	218	4	524	92	2,186	117	3,783
8月	1	46	2	53	1	22	163	4,961	167	5,082
9月	28	1,823	6	362	3	513	80	1,685	117	4,383
10月	18	894	5	658	3	200	160	4,174	186	5,926
11月	8	218	1	18	1	8	49	1,091	59	1,335
12月	1	37	0	0	0	0	24	646	25	683
1月	0	0	0	0	0	0	12	276	12	276
2月	0	0	0	0	0	0	21	602	21	602
3月	0	0	0	0	0	0	24	552	24	552
計	205	10,418	49	4,294	19	1,674	817	19,881	1,090	36,267

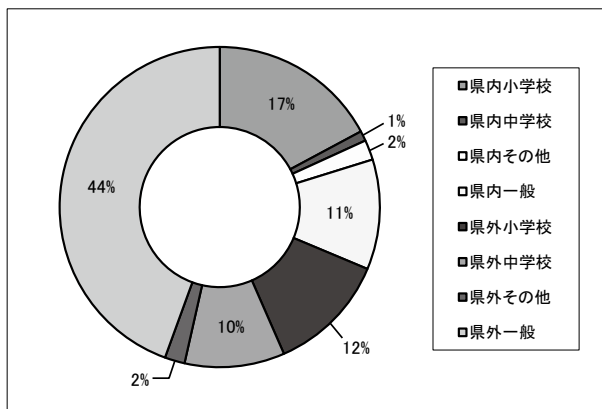
表3 平成27年度団体見学者数



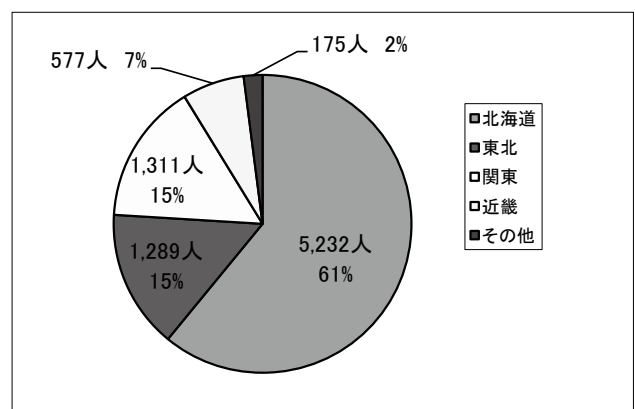
グラフ3 平成27年度団体見学者数

県内外別	小学校		中学校		その他学校		一般		総計	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	団体数	人数	団体数	人数
県内	122	6,223	9	529	12	805	160	4,025	303	11,582
県外	83	4,195	40	3,765	7	869	657	15,856	787	24,685
計	205	10,418	49	4,294	19	1,674	817	19,881	1,090	36,267

表4 平成27年度団体見学者の地域別見学者数



グラフ4 平成27年度団体見学者数の割合



グラフ5 平成27年度修学旅行生の地域別割合

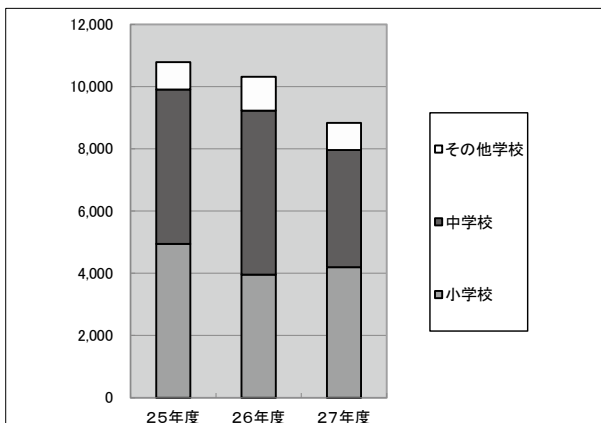
平成 27 年度の学校団体の見学者数は、県外で 8,829 人、県内で 7,557 人となっている。

県外の学校の見学者数は、昨年度と比較すると小学校で増加し、中学校・その他学校で減少している。

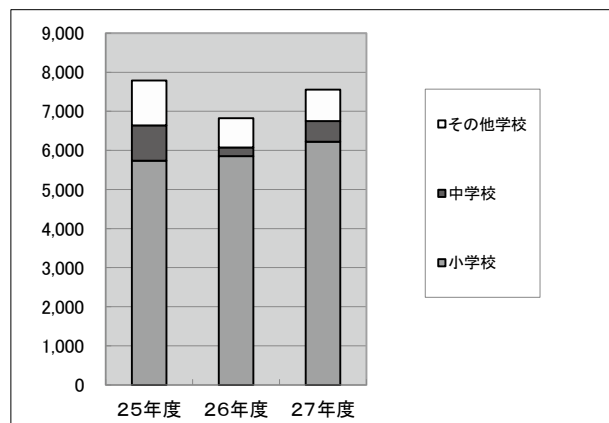
また、県内学校については、昨年度と比較すると小学校・中学校・その他学校いずれも増加している。

註) カウント方法は次のとおりである。

- ・遺跡・ミュージアム見学者数：縄文時遊館・ミュージアム入口でセンサーによりカウント
- ・団体見学者数：事前に見学申込のあった団体見学者で団体申込業務を行う三内丸山応援隊がカウント



グラフ 6 県外学校の見学者数



グラフ 7 県内学校の見学者数

年度	小学校		中学校		その他学校		総計		前年比(%)	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	団体数	人数	団体数	人数
25年度	86	4,941	46	4,963	12	880	144	10,784	87.8	87.6
26年度	80	3,952	48	5,276	8	1,084	136	10,312	94.4	95.6
27年度	83	4,195	40	3,765	7	869	130	8,829	95.6	85.6

表 5 県外学校の見学者数

年度	小学校		中学校		その他学校		総計		前年比(%)	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	団体数	人数	団体数	人数
25年度	118	5,739	13	898	20	1,149	151	7,786	94.4	88.3
26年度	122	5,851	5	224	19	747	146	6,822	96.7	87.6
27年度	122	6,223	9	529	12	805	143	7,557	97.9	110.8

表 6 県内学校の見学者数

第3 研究ノート

1 盛土や捨て場と土坑墓や埋設土器との関係に関する一考察 —青森県の事例を中心に—

濱松 優介（青森県教育庁文化財保護課）

1 はじめに

円筒土器文化の遺跡においては、しばしば大規模な「捨て場」や「盛土」が確認されることがあり、時には、土坑墓や埋設土器など葬送に関連すると考えられる遺構と平面的に重複している例も確認されている。そのような場合、偶然の所産ではなく、集落内において意図的な「場」の使い分けがなされていた可能性が指摘されている（註1）。筆者も三内丸山遺跡の発掘調査において、下位に土坑墓、上位には環状配石墓が構築されている盛土の調査に携る機会を得（青森県教委2016）、盛土と葬送施設との関係について関心を抱くようになった。

そこで、本稿では、「捨て場」や「盛土」と土坑墓や埋設土器等との関連性について、考察してみたい。

2 対象とする遺構について

①捨て場・盛土について

円筒土器文化の遺跡においては「盛土」「捨て場」「(遺物) 包含層」などと呼ばれる遺構が確認されることがある。これらは、土器や石器などの遺物が多量に出土する場合や二次堆積のローム質土が厚く堆積している場合、あるいはその両方が見られる場合など、遺物の出土状況や堆積状況が周辺とは異なった様相を呈している。谷や竪穴建物跡などの遺構廃絶後の凹地に形成される例は前期に多く確認され、平地に形成される例は前期には見られず、中期に出現するようになる。これについ

ては「前期から中期にかけて廃棄行為そのものが大きく変化しているものとも考えられる」（岡田2014）との指摘がある。また、斜面に形成される例については円筒土器文化の全時期を通じて確認される。

②土坑墓・埋設土器について

葬送に関連する施設としては土坑墓と埋設土器が挙げられる。土坑墓中に、人骨が残存していることは極めて稀であるが、各報告書の記載を基に、平面形や堆積土の状況などを検討したうえで、土坑墓として扱うこととする。

埋設土器（註2）については、青森県八戸市蟹沢遺跡で土器内に胎児骨が確認されている例（江坂ほか1958）や北海道八雲町コタン温泉遺跡（八雲町教委1992）において土器内部に新生児または胎児骨（第12号人骨）が埋葬された例が確認されており、小児用の墓としての利用が想定されるため、本稿では葬送に関連するものとして扱うこととする。ただし、竪穴建物内等、屋内の埋設土器については十分に検討することができなかったため、本稿においては屋外の埋設土器のみを対象としている。

3 各遺跡の様相について（図1）

次に、前項2であげた遺構に着目し、盛土や捨て場のあり方や葬送に関連する施設が特徴的な遺跡についての検討を加える。

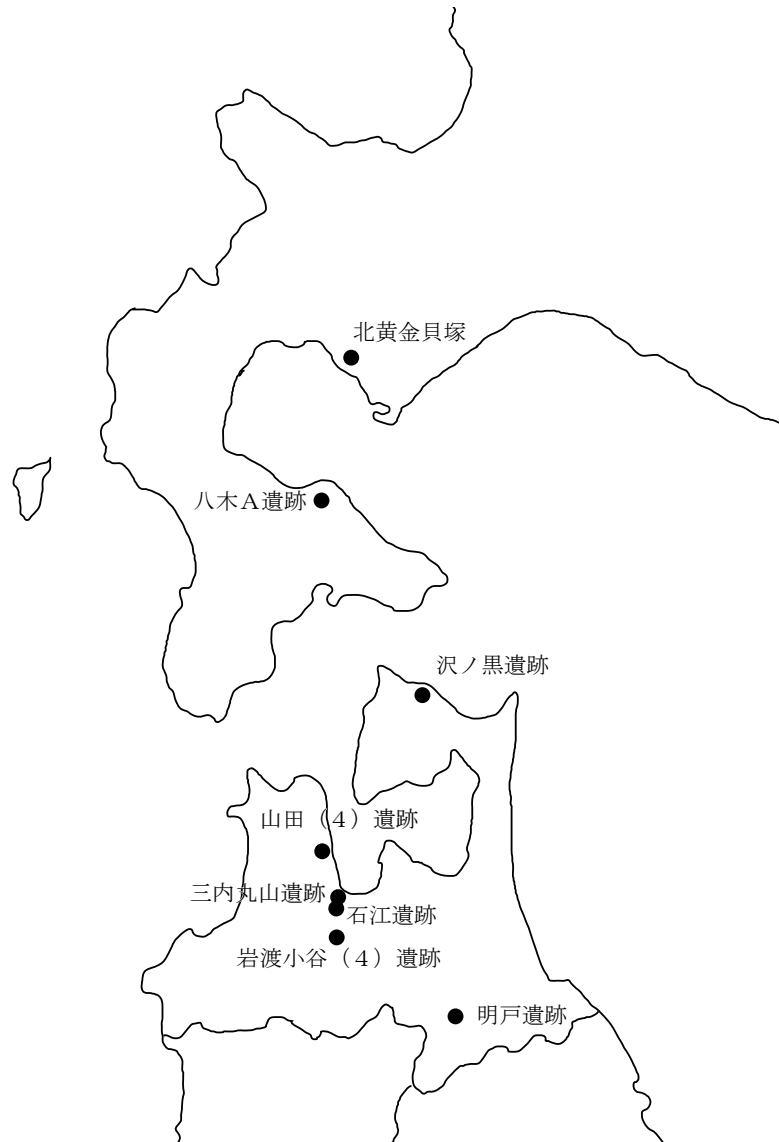


図1 対象遺跡位置図

○石江遺跡（図2）…青森県青森市に所在する。遺跡の北側斜面部分において前期中葉～後葉にかけて形成された捨て場が確認されている。前期中葉（円筒下層 a 式）の竪穴建物跡の廃絶後の凹地に捨て場が形成され始め（DSI15への廃棄）、前期後葉の竪穴建物跡の廃絶後の凹地（DSI16・22）への捨て場の形成まで継続する。また、捨て場の形成と平行し、平面的に重複するように埋設土器が構築され、そのほとんどが前期後葉（円筒下層 d1式）に帰属するものである。

○沢ノ黒遺跡…青森県風間浦村に所在する。前期後葉～中期初頭にかけて形成された第1号捨て場の下位で土坑墓が確認されているほか、形成過程においては埋設土器の構築も確認されていることから「墓域から捨て場への推移は确实」（青森県教委2007）と報告されている。また、1個体がおしつぶされたような、復元可能な土器が多数出土している。ただ、中期前葉頃に形成された第2号捨て場は土坑墓や埋設土器と平面的に重複せず、遺物の出土状況も第1号捨て場とは異なった様相を呈しており、「集落内での役割に違いがあった可能性」（青森県教委2007）が指摘されている。

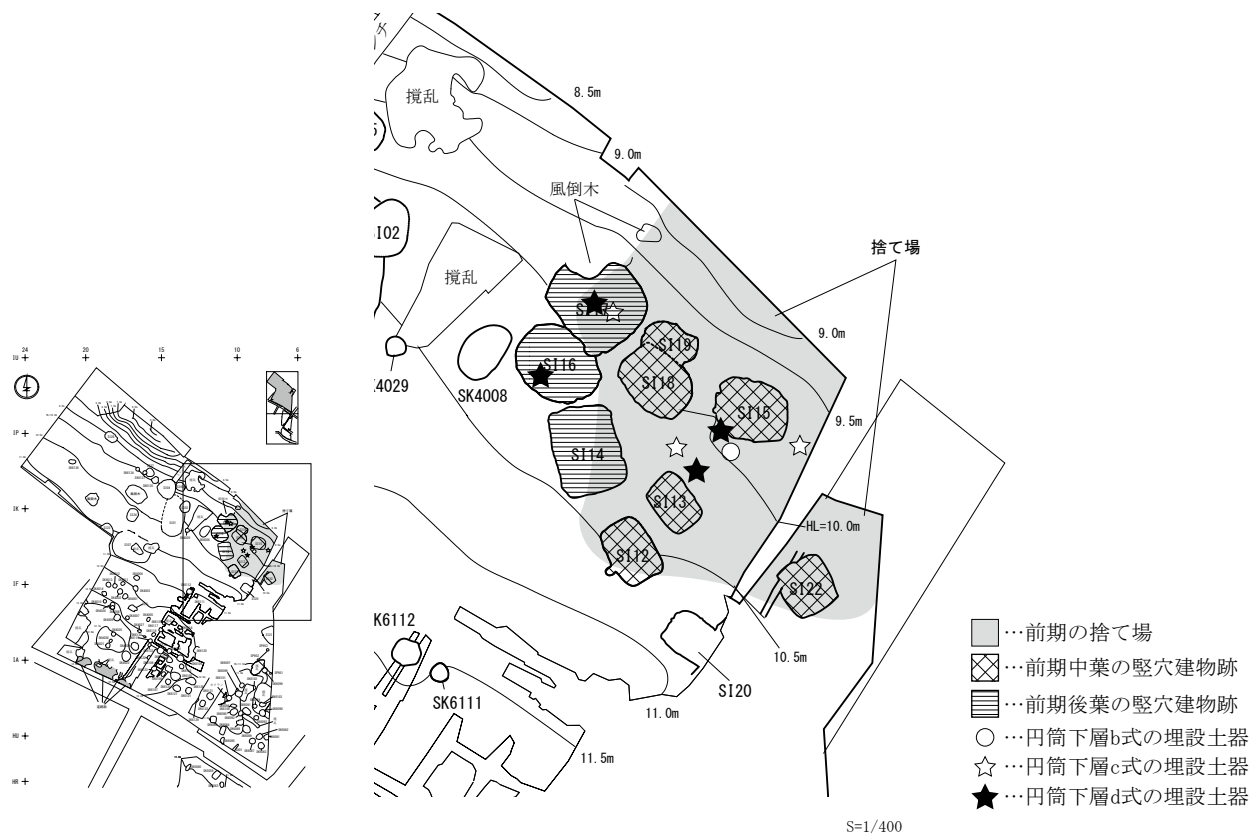


図2 石江遺跡における捨て場と埋設土器の重複（青森県教委2008を筆者改変）

○明戸遺跡（図3）…青森県十和田市に所在する。第4号住居跡および第6号住居跡（註3）の廃絶後の凹地に多量の遺物が廃棄され、捨て場が形成されている。堆積土中からは復元可能な土器が多量に出土している。これらの捨て場から出土した土器型式は古いものでは、「円筒下層c式に近い特徴を有する」（青森県教委2010）が、大半は円筒下層d式に属するものと考えられる。また、住居跡の凹地が埋没した後に円筒下層d2式～円筒上層a式の埋設土器が構築されている（SR-01～08）。

○岩渡小谷（4）遺跡…青森県青森市に所在する。丘陵の頂部（「頂部捨て場」）と斜面部（「捨て場」）、沢にそれぞれ「捨て場」が形成されている（青森県教委2004）。いずれも前期後葉頃の遺物が主体となって出土している。「頂部捨て場」の下位に

は、竪穴建物跡があり、その廃絶後の凹地に多量の遺物が廃棄されたような状況が確認されている。また、「捨て場」と平面的に重複するように土坑墓の可能性のある第19号土坑が確認されているほか、「頂部捨て場」ならびに「捨て場」では、多数の埋設土器が平面的に重複して確認されている。

以上のような「頂部捨て場」および「捨て場」の状況に対して、沢内に形成された「捨て場」においては、重複するような、葬送に関連する遺構は確認されていない。ただし、遺物の出土状況は前記した2つの捨て場と同様に、復元可能な個体が多数出土している。

○山田（4）遺跡…青森県蓬田村に所在する。E区で調査区を南西―北東方向に横断する沢が確認されており、その下流域で前期末葉（円筒下層d



図3 左：明戸遺跡第4・6号住居跡周辺平面図
 右：第4号住居跡セクション図（青森県教委2010を筆者編集）

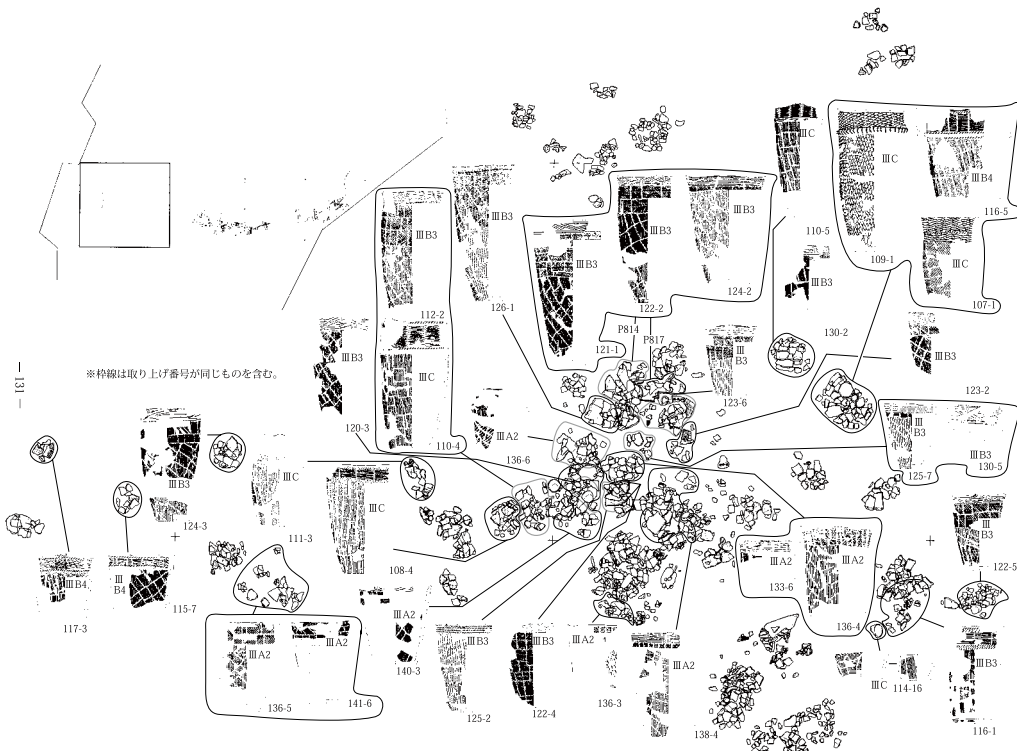


図4 岩渡小谷（4）遺跡沢捨場遺物出土状況（青森県教委2004を筆者改変）

明戸遺跡第4号住居跡東西へルト遺物投影図

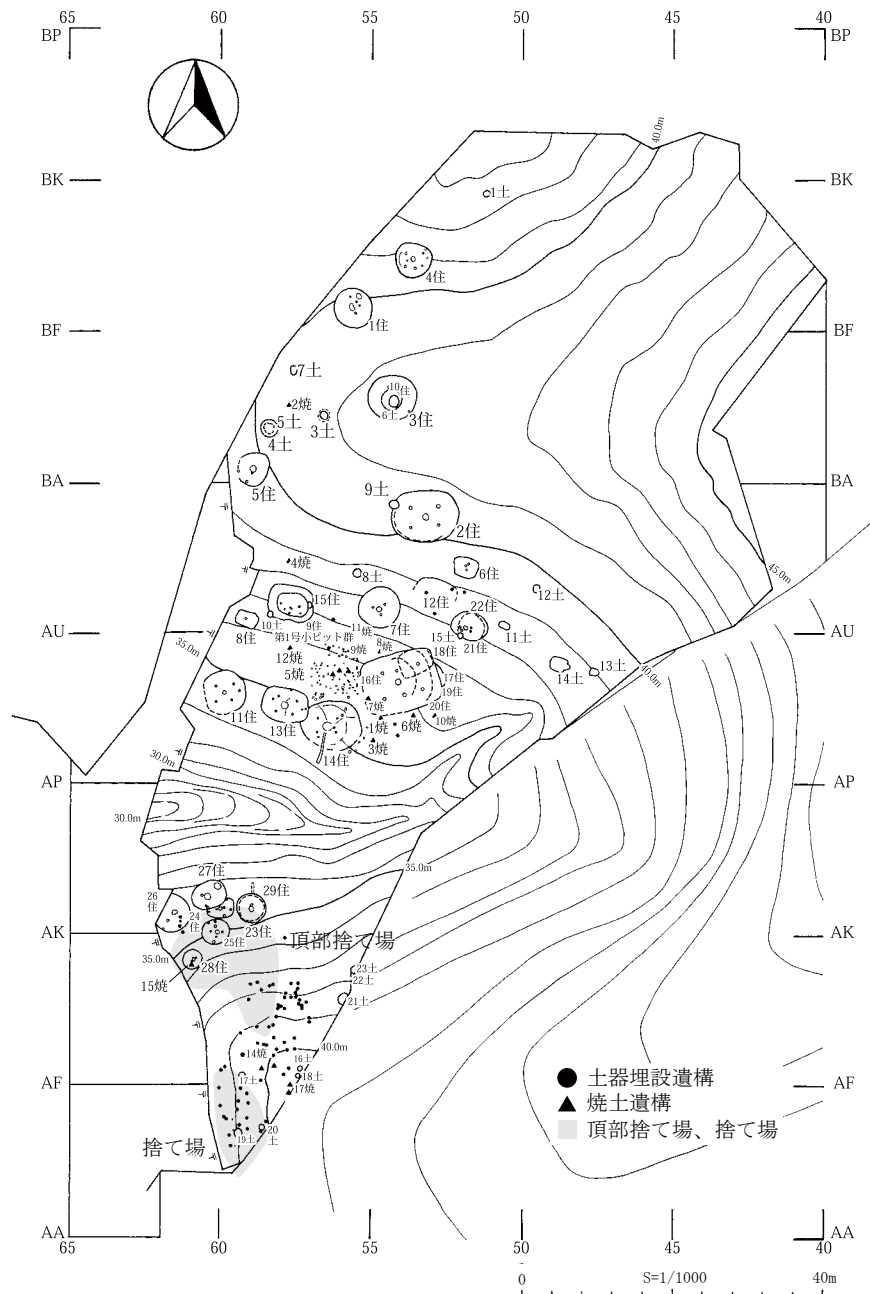


図5 岩渡小谷（4）遺跡遺構配置図（青森県教委2004を筆者改変）

式)を主体とする捨て場が確認されており、1個体が押しつぶされたような、復元可能な土器が多数出土している。また、平面的に重複するような、葬送に関連する遺構は確認されていない。

○三内丸山遺跡…青森県青森市に所在する。現在のところ、北盛土・南盛土・西盛土と呼称している大規模な盛土が確認されているほか、第6鉄塔地区、第37次調査区（37-1区）南西に分布する

盛土などが確認されている（図6）。また、集落中心部から東・南に延びる道路跡沿いおよび西側の中位段丘上に所在する道路跡沿いに土坑墓が構築されているほか、北盛土の北側と西盛土中には埋設土器の密集域が確認されている。

・北盛土…盛土の下位には前期の竪穴建物跡や竪穴建物跡廃絶後の凹地に形成された捨て場が確認されている。竪穴建物跡廃絶後の凹地に形成された捨て場は円筒下層b式～円筒上層a式にわたり

形成される。盛土の形成は、「平坦地の遺構空白部分に多量の土器が捨てられ始めた時だとする」ならば「円筒下層 d2 式～上層 a 式」であると捉えられている（青森県教委2013）。出土する土器は、1 個体が押しつぶされたようなもの、二次堆積のローム質土中に破片が混入して出土するものの両方が確認されている。

また、隣接して埋設土器の密集域が形成される。周辺で確認された最も古いものは、前期中葉の円筒下層 b 式のものであり、集中して構築されるのは、前期末葉の円筒下層 d1 式期頃からと考えられる（図7）。その後中期前葉頃までは周辺に集中して構築されるが、中期中葉以降になると、周辺域において集中して構築されるような傾向は見られなくなる（図8）。ただし、これらの埋設土器は型式毎の復元土器の分布域（青森県教委2013）と平面的に重複するものは少なく、重複するものについても埋設土器の構築時期と復元土器の型式が異なるものである。

・南盛土…盛土は主に中期に形成される。盛土の下位には前期中葉頃（円筒下層 b 式期）の土坑墓が確認されている。埋設土器も盛土と重複する範囲内に構築されているが、北盛土の周辺域と比較

すると、その数は少ない（青森県教委2009）。出土する土器は、1 個体が押しつぶされたようなもの、二次堆積のローム質土中に破片が混入して出土するものの両方が確認されている。

・西盛土…盛土は前期末葉～中期にかけて形成される。また、盛土の形成と並行して埋設土器が集中して構築されている。「埋設土器の構築場所として盛土の範囲が意識的に選択されていた様子をうかがわせる。埋設土器が基本的に小児土器棺であるということをふまえれば、盛土は出産儀礼や葬送に関連した行為の場との見方もできる。」（青森県教委2012）との報告がある。出土する土器は、1 個体が押しつぶされたようなもの、二次堆積のローム質土中に破片が混入して出土するものの両方が確認されている。

・第6 鉄塔地区…自然地形の凹地に前期中葉（円筒下層 a・b 式）の遺物が敷き詰められたような状態で出土しており、1 個体が押しつぶされたような、復元可能な土器が多数出土している。前期後葉～中期にかけて、遺物の破片を含む二次堆積のローム質土が廃棄されるが、全時期を通じて葬送に関連するような遺構は構築されていない。



図6 三内丸山遺跡全体図

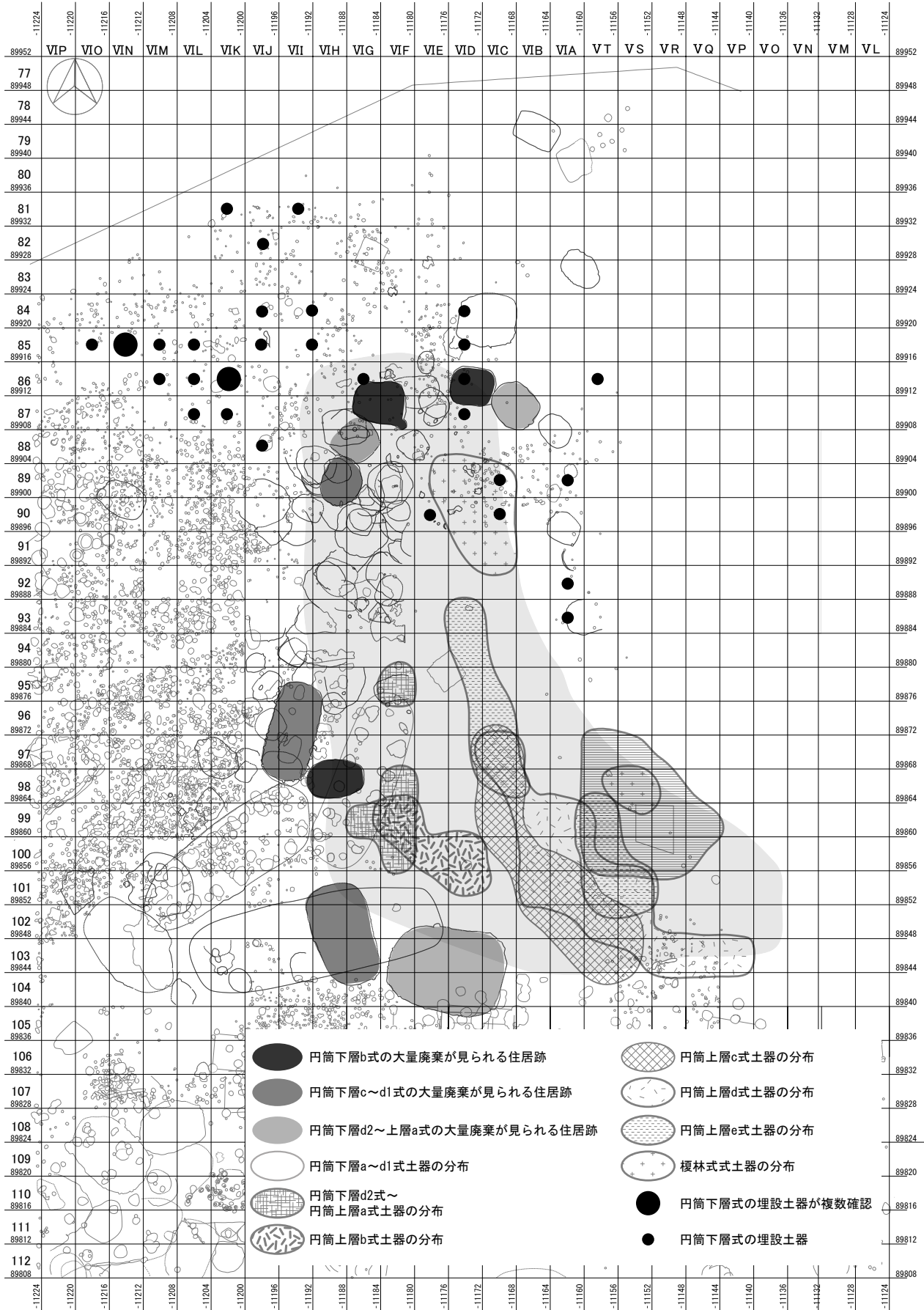


図7 北盛土周辺における前期埋設土器の分布（青森県教委2013を筆者改変）

※埋設土器の分布については、確認されたグリッドを示す。

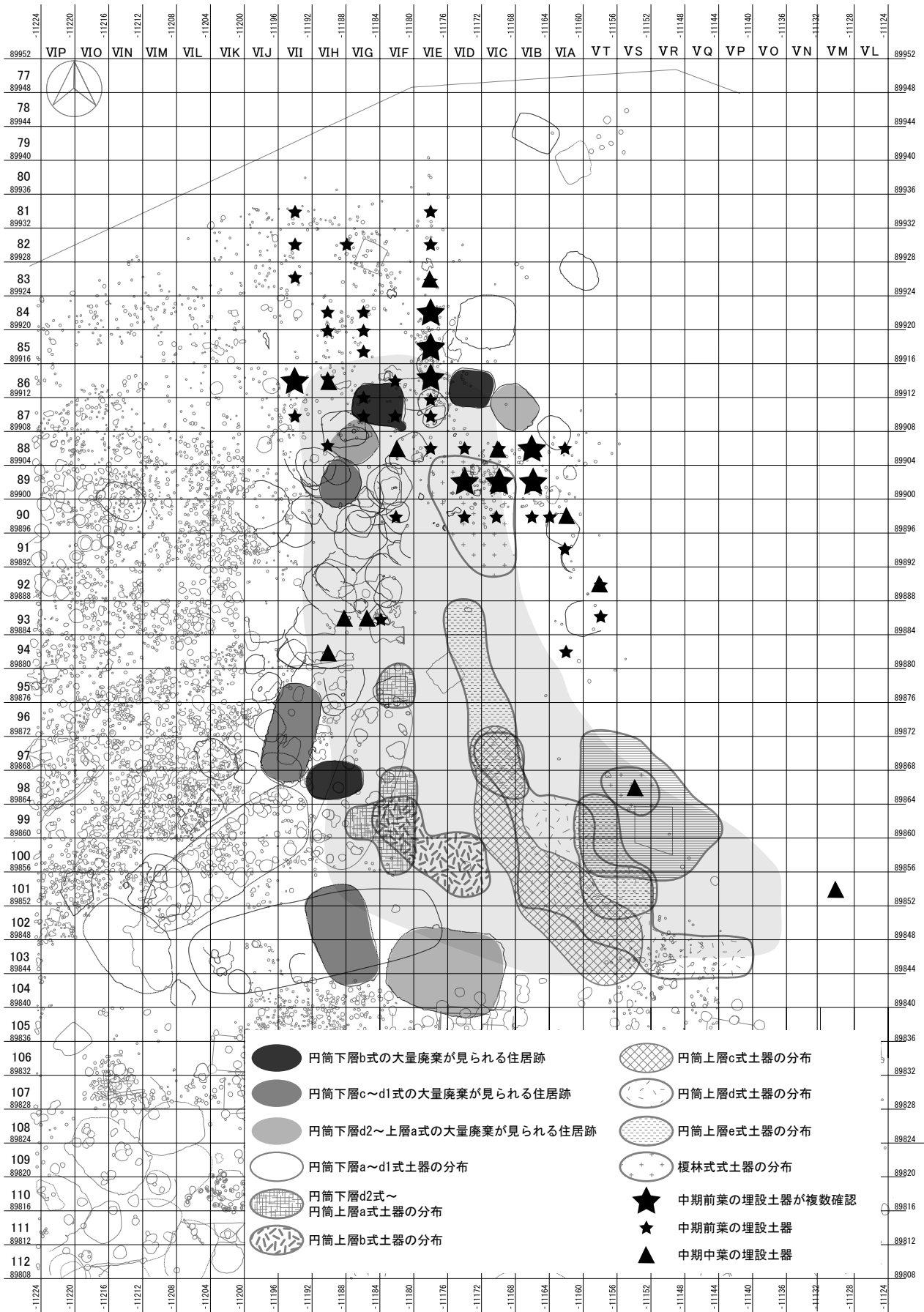


図8 北盛土周辺における中期埋設土器の分布（青森県教委2013を筆者改変）

※埋設土器の分布については、確認されたグリッドを示す。

・37-1区南西に分布する盛土…下位には土坑墓が確認され、盛土の上位には環状配石墓が構築されている（青森県教委2016）。出土する土器は破片を中心とし、一個体が押しつぶされたような状態で出土するものは確認されていない。

また、青森県外の事例ではあるが、北海道伊達市北黄金貝塚ではA'地点貝塚では人骨や土坑墓、C地点貝塚ではシカの頭骨を用いた祭祀が行われていた痕跡が確認されているほか、北海道函館市（旧南茅部町）の八木A遺跡では、前期中葉段階の土坑墓と盛土が平面的に重複する例が確認されている（伊達市噴火湾研究所 2013、南茅部町教委1993 他）。

4 まとめ

以上、捨て場・盛土と葬送施設との関係を概観してきたが、本稿では特に埋設土器との関係について着目して考察を加える。

埋設土器は、前期後葉の円筒下層d式期においてその確認数が急増することがこれまでの先行研究によって明らかになっている（坂本2005など）。一方、捨て場や盛土も円筒下層a式期～大木10式併行期までの円筒土器文化期を含む縄文時代全時期を通じて存在することが明らかになっている。

捨て場や盛土と埋設土器が平面的に重複する例は前期末葉～中期初頭頃に顕著に現れる（三内丸山遺跡西盛土、明戸遺跡第4・6号竪穴建物跡、石江遺跡、岩渡小谷（4）遺跡頂部捨て場・捨て場など）。これらは盛土や捨て場の形成中あるいは形成後に大きな時間的な間隙をおかずに、埋設土器が形成されている。このような例については、盛土や捨て場と埋設土器に密接な関係がうかがえる。三内丸山遺跡の西盛土の報告において言及されたような「出産儀礼や葬送に関連した行為の場」であった可能性や埋設土器が「地鎮に類する意図が複合して存在」（立田2014）した可能性が考え

られ、いずれにせよ集落内で特殊な場所性を与えられた可能性がうかがえる。

ただし、捨て場や盛土とは平面的に重複しない埋設土器の密集域が確認される例（三内丸山遺跡北盛土周辺等）や捨て場や盛土と埋設土器が離れた場所に形成される場合（三内丸山遺跡第6鉄塔、山田（4）遺跡等）も確認されている。これらについては、前記した捨て場や盛土と埋設土器が平面的に重複する例とは異なる形成理由を考える必要があるだろう。

また、今回は十分な検討ができなかったが、捨て場や盛土の下位に土坑墓が構築される例も確認されている（三内丸山遺跡の南盛土・37-1区南西の盛土、沢ノ黒遺跡、八木A遺跡）が、捨て場や盛土と埋設土器との関係と比較すると数は少ないが、これらについては、盛土や捨て場の形成される契機として土坑墓の存在が理由として挙げられる可能性があり、今後さらに該期の資料を集成し、検討を加える必要があるだろう。

以上のように、捨て場や盛土と葬送に関連する施設は密接な関係があることがうかがえる。ただし、全てが同じよう関係性を有するわけではなく、それぞれが様々な様相を呈するため、個別に検討を行う必要があるだろう。三内丸山遺跡や岩渡小谷（4）遺跡、北黄金貝塚のように、集落内に同一時期に複数の捨て場を有する場合でも、土坑墓や埋設土器が構築される場合とされない場合とが確認されており、捨て場や盛土の性格の多様性の一端をうかがい知ることができる。

5. おわりに

今回は青森県内の資料、特に土坑墓や埋設土器が確認されている遺跡を中心に考察したが、今後、円筒土器文化圏内の他の遺跡等の事例を検討することにより、捨て場や盛土と土坑墓や埋設土器との関係がより明らかになるであろう。

本稿の執筆にあたり、岡田康博氏からは貴重なご意見を頂戴いたしました。記して感謝申し上げます。

註

(1) 例えば北海道伊達市北黄金貝塚や青森県風間浦村沢ノ黒遺跡など。

(2) 報告書内で「土器埋設遺構」とされているものも埋設土器として扱う。

■引用・参考文献

青森県教育委員会 1997 『三内丸山遺跡Ⅷ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第230集
青森県教育委員会 2003 『岩渡小谷(3)・(4)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第352集
青森県教育委員会 2004 『岩渡小谷(4)遺跡2』 青森県埋蔵文化財調査報告書第371集
青森県教育委員会 2007 『沢ノ黒遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第435集
青森県教育委員会 2008 『石江遺跡・三内沢部(3)遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第458集
青森県教育委員会 2010 『山田(4)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第484集
青森県教育委員会 2010 『明戸遺跡・高屋遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第488集
青森県教育委員会 2009 『三内丸山遺跡35』 青森県埋蔵文化財調査報告書第478集
青森県教育委員会 2012 『三内丸山遺跡38』 青森県埋蔵文化財調査報告書第519集
青森県教育委員会 2012 『三内丸山遺跡39』 青森県埋蔵文化財調査報告書第520集
青森県教育委員会 2013 『三内丸山遺跡40』 青森県埋蔵文化財調査報告書第533集
青森県教育委員会 2016 『三内丸山遺跡43』 青森県埋蔵文化財調査報告書第570集
伊達市噴火湾文化研究所 2013 『KITAKOGANE』
南茅部町埋蔵文化財調査団 1993 『八木A遺跡・

ハマナス野遺跡』 南茅部町埋蔵文化財調査団第4輯報告

南茅部町埋蔵文化財調査団 1995 『八木A遺跡Ⅱ・ハマナス野遺跡』 南茅部町埋蔵文化財調査団第5輯報告

南茅部町埋蔵文化財調査団 1997 『八木A遺跡Ⅲ・八木C遺跡』 南茅部町埋蔵文化財調査団第6輯報告

八雲町教育委員会 1992 『コタン温泉遺跡』

江坂輝弥ほか 1958 「青森県蟹沢遺跡調査報告」 『石器時代』 5

小笠原雅行 2010 「円筒下層期の葬制—青森市内の例から—」 『青森県考古学』 第18号 青森県考古学会

岡田康博 2014 『三内丸山遺跡』 日本の遺跡48 同成社

岡本洋 2014 「青森県の埋設土器・埋設遺構集成」 『北日本縄文時代埋設土器・埋設遺構集成』 北日本縄文文化研究会

小林克他 2010a 『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究—資料集—』

小林克他 2010b 『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究—予稿集—』

小林克他 2010c 『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究—座談会録—』

坂本真弓 2005 「青森県における縄文時代前期の土器埋設遺構」 『研究紀要』 第10号 青森県埋蔵文化財調査センター

立田理 2014 「北海道の埋設土器・埋設以降集成」 『北日本縄文時代埋設土器・埋設遺構集成』 北日本縄文文化研究会

2 ミニチュア化された模倣品 —三内丸山遺跡の棒状土製品を中心として—

岩田 安之（青森県教育庁文化財保護課）

1 はじめに

本稿で検討する模倣関係とは、モデル（原型）とそれをまねたものの双方が確認されたときに成り立ち、物質文化においては図1の概念を考えている。素材が変更される場合や、ミニチュア化されることがあり、さらに素材を変更してミニチュア化されるものもある（図1の重なり部分）。土器のように、モデルから同じ素材で模倣されるとまったく同じものや情報が欠落・変容したものがつくられる場合も考えられるが、双方の関係を規定するのが難しいため、ここでは扱わない。

三内丸山遺跡からは、多くの土製品が出土しているが、その中には模倣品と考えられるものがある。ミニチュア土器もその一つであり、そのほかにも小型化して模倣されたと推測される土製品がみられる。図1のミニチュア化とは、小型化の幅が大きいものと概念規定することができる。ミニチュア化されるものは、例えば現代でいうと、ミニカー、ドールハウス、鉄道模型、仏壇、仏具（仏

飯器など）、お守り（弓矢形、太陽形、月形、十字架形など）が挙げられる。おもに、玩具や鑑賞品と、祭祀具の2種類に分けられることができるが、ひな人形とひな道具などは玩具的な意味合いとまつりの要素が混在しており、きっちりと線引きできないものもある。

ミニチュア化は、モデルがもっている本来の機能を象徴化する行為で、当時の社会で行われた模倣行為の一端を探るよい材料であることは間違いなく、非常に情報の多い遺物であるといえる。

三内丸山遺跡からは棒状土製品と呼ばれている、粘土を棒状に整形したものが出土している。以下から詳しくみていくが、この中には定型的なまとまりがあり、その形態的特徴を検討すると、石棒や石刀などのミニチュアが存在している可能性が高い。

三内丸山遺跡からは端部彫刻石棒と呼称される、円筒状で端部に同心円の文様が表現されるものが土製品としても存在する(図2左)。これは棒状土

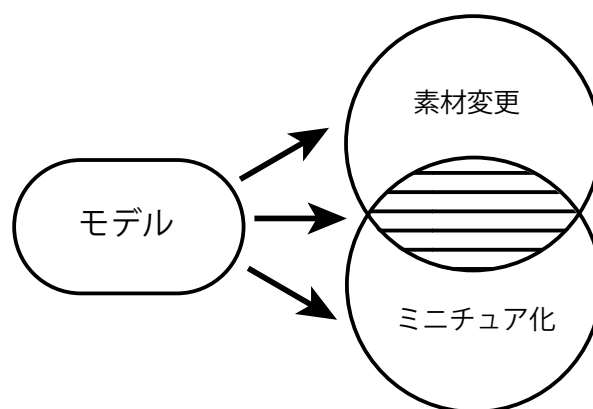


図1 模倣の概念図

製品が石棒の模倣品である可能性を示唆している。岩手県九戸町の田代遺跡からは、端部に十字が刻まれた石棒と、まさにそのミニチュアともいえる土製品が出土しており（図2右）、このことから棒状土製品の定型的なものは石棒のミニチュアとして理解してよいと考えられる。

本稿の目的は、ミニチュア化する行為の一端を棒状土製品を素材にして検討することである。ひいては、人間はなぜ模倣するのかという根本的な問題を考えるきっかけともしたい。

2 棒状土製品と石棒・石刀

棒状土製品はその名のとおり、粘土を棒状に成形し焼成したものである。円筒状や紡錘状に成形することや、刃部をつくり出すことなど、石棒や石刀の特徴をとらえたものがあるため、それらのミニチュアと考えられる（青森県教委 2013、岡村 2015）。

三内丸山遺跡では、北盛土や南盛土から多く出土している。三内丸山遺跡近野地区や三内丸山（6）遺跡からも出土しており、現在のところ、

三内丸山遺跡周辺で確認される縄文時代中期に特徴的な土製品のひとつである。

（1）分類（図4）

三内丸山遺跡では量がまとまって出土しており、形態と整形技術で分類することができる。

I類：細長い紡錘状で、端部付近には刃部が作り出される。現在のところ、北盛土出土の1例のみである。

II類：円筒状

II a類：長細い形状で、両端が平たく整形される。明確に分類できるものでは、南盛土と北盛土あわせて5点（南2、北3）確認できる。

II b類：II a類に比べて寸詰まりで、両端が平たく整形される。明確に分類できるものでは、南盛土と北盛土あわせて5点（南1、北4）確認できる。

III類：紡錘状

III a類：中間がふくらむ細長い紡錘状で、両端が平たく整形されるものとそうでないものがある。明確に分類できるものでは、南盛土と北盛土

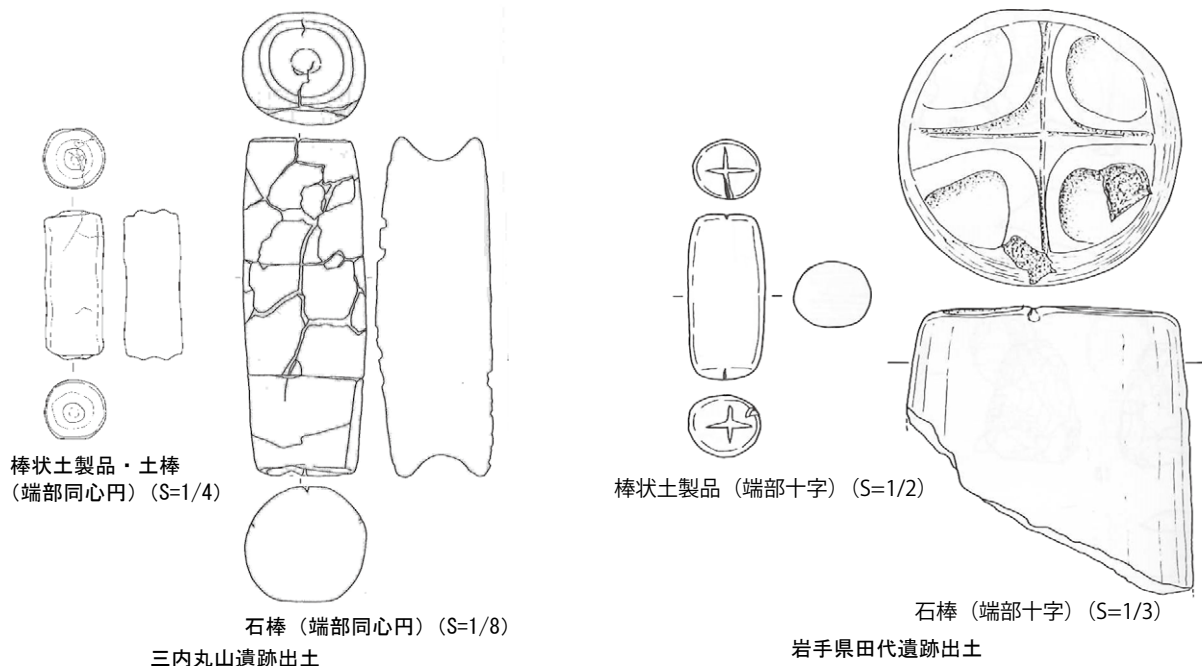


図2 棒状土製品とそのモデルと考えられる石棒

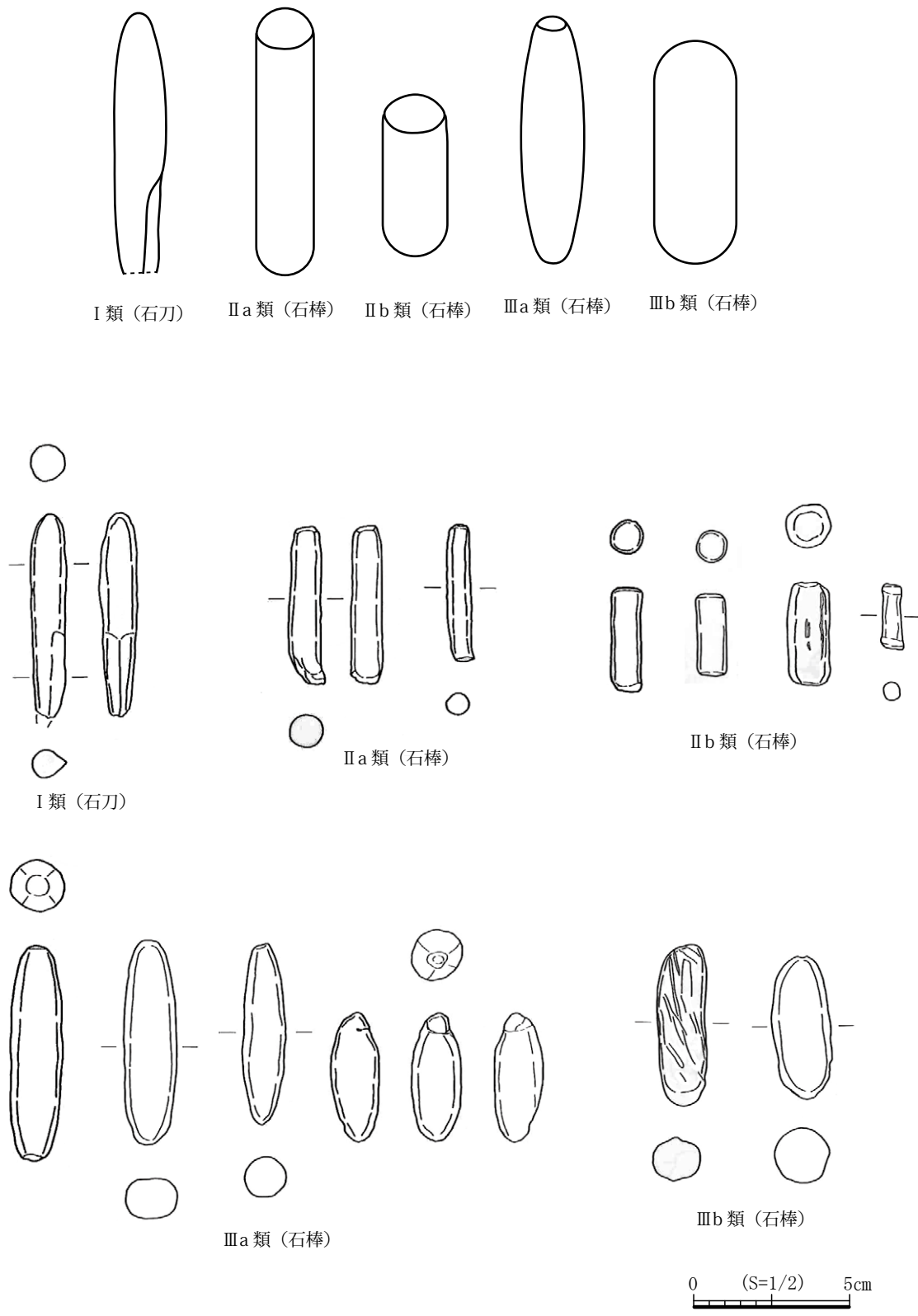


図3 棒状土製品の形態分類

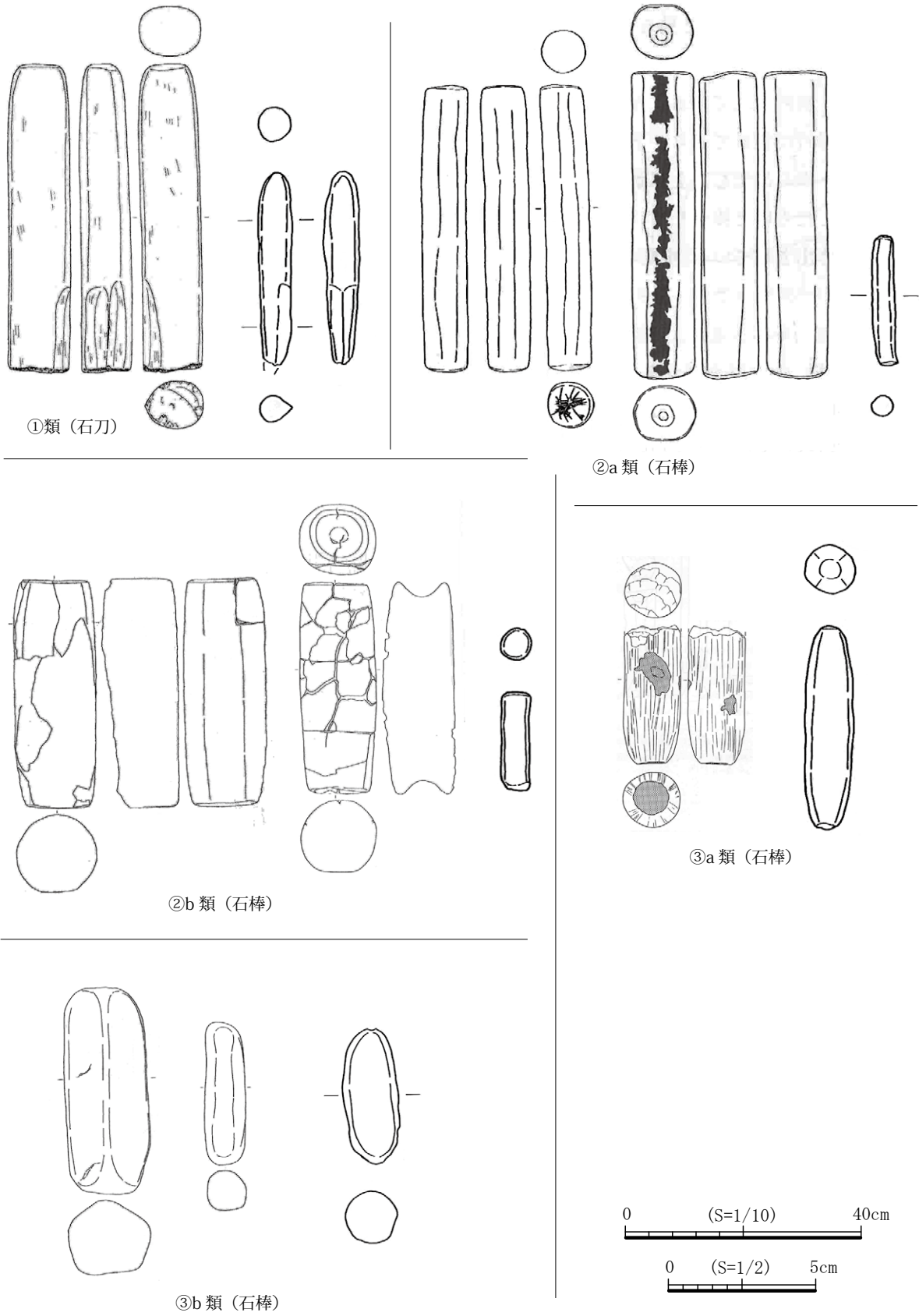


図4 石刀・石棒の形態分類と棒状土製品との比較 (石刀・石棒S=1/10 棒状土製品S=1/2)

いずれも中期中葉～末葉の拠点集落遺跡である。

4 まとめにかえて

これまでみてきたように、棒状土製品には石刀や石棒を素材変更してミニチュア化したものであり、石棒や石刀の形態的特徴をよく反映している可能性がある。これはモデルの石棒が形態ごとに認識されていることが示唆されており、ミニチュアとしてその形態を模倣することは重要であったことが考えられる。

今後の課題として、冒頭でも述べたようにミニチュア化して模倣する意味という本質的な問題があげられる。ミニチュア化されるものの特徴を縄文時代だけではなく、ほかの時代の類例や現代の民俗例、民族例などとも比較・検討することも必要である。

謝辞

岡田康博氏には、本稿の構成から内容にいたるまで、多岐にわたるご指導をいただきました。岡村道雄氏には類例など、他地域との比較を行う上で貴重なご指導をいただきました。

末筆ながら記して感謝申し上げます。

註

(1) 報告書を実見することができなかったが、岡村道雄氏のご教示による。

図版出典

図1 筆者作成

図2 (財)岩手県埋蔵文化財センター 1982、青教委 2012b、茅野 2013 を転載して作成

図4 青森県教委 2013 を転載して作成

図5 青森県教委 2004、2012a、2013 を転載して作成

図5 青森県教委 1989、1995、2013、2002、南茅部町教育委員会 1983、一戸町教育委員会

2015、鹿角市教育委員会 1984 を転載して作成

文献

青森県教育委員会 1989 『館野遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 119 集

青森県教育委員会 1995 『泉山遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 181 集

青森県教育委員会 2000 『餅ノ沢遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 278 集

青森県教育委員会 2000 『三内丸山 (6) 遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 279 集

青森県教育委員会 2002 『三内丸山 (6) 遺跡Ⅳ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 327 集

青森県教育委員会 2007 『近野遺跡Ⅹ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 432 集

青森県教育委員会 2004 『三内丸山遺跡 25』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 383 集

青森県教育委員会 2005 『三内丸山遺跡 26』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 404 集

青森県教育委員会 2009 『三内丸山遺跡 35』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 478 集

青森県教育委員会 2012a 『三内丸山遺跡 38』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 519 集

青森県教育委員会 2012b 『三内丸山遺跡 39』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 520 集

青森県教育委員会 2013 『三内丸山遺跡 40』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 533 集

一戸町教育委員会 1983 『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅲ』 一戸町文化財調査報告書第 4 集

一戸町教育委員会 1993 『御所野遺跡Ⅰ』

一戸町教育委員会 2015 『御所野遺跡Ⅴ—総括報告書—』

網谷克彦 2007 「木器製作のムラ」 『縄文時代の考古学6』 同成社

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『大日向Ⅱ遺跡』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 225 集

- 岩田安之 2011「頻度のセリエーション、系統のセリエーション、流行のタイムラグー青森県縄文時代前期後半期における土器の分析」『考古学と陶磁史学—佐々木達雄先生退職記念論文集—』金沢大学考古学研究室
- 岩田安之 2012「三内丸山遺跡のミニチュア土器に関する予察」『特別史跡三内丸山遺跡年報』15 青森県教育委員会
- 大野薫 1989「匙形土製品小考」『大阪文化論集—(財)大阪文化財センター設立15周年記念論集』
- 岡田康博 2014『三内丸山遺跡』同成社
- 岡村道雄 2015「(3)土製品・石製品」『御所野遺跡V—総括報告書—』一戸町教育委員会
- 鹿角市教育委員会 1984『天戸森遺跡発掘調査報告書』鹿角市文化調査資料26
- 金子拓男 1983「三角形土版・三角形岩版」『縄文文化の研究9』雄山閣
- 北上市教育委員会 2006『横町遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第72集
- 小林圭一「やまがたの縄文時代前期の集落」『じょうもん天地人』山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
- 小林圭一 2007「押出遺跡出土の縄文時代前期の土器」『押出遺跡』山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
- 齋藤 岳 2014「石器の変化から見た縄文時代中期末の北東北・北海道について」『研究紀要』第19号 青森県埋蔵文化財調査センター
- 齋藤 岳 2014「北東北・北海道の石冠・土冠と脚付石皿について」『青森県考古学』第22号 青森県考古学会
- (財)岩手県埋蔵文化財センター 1982『田代遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財調査報告書第41集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査センター 1998『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第273集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査センター 2002『清水遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第382集
- (財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2014『小竹貝塚発掘調査報告書』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告書60
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1989『忍路土場遺跡・忍路5遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告第53集
- 茅野嘉雄 2013「三内丸山遺跡の石刀類・石棒について」『特別史跡三内丸山遺跡年報』16 青森県教育委員会
- 日本考古学協会 2016『津軽海峡圏の縄文文化研究報告資料集』日本考古学協会 2016年度弘前大会実行委員会
- 野辺地町教育委員会 2004『向田(18)遺跡』野辺地町文化財調査報告第14集
- 福島市教育委員会 2004『宮畑遺跡(岡島)』福島市埋蔵文化財報告書第173集
- 南茅部町教育委員会 1983『ハマナス野遺跡Ⅱ』八雲町教育委員会 1998『栄浜1遺跡Ⅳ』
- 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 2007『押出遺跡』
- 山田昌久 1989「縄文時代のうつわを探る—縄文時代後期木製容器からの検討—」『忍路土場遺跡・忍路5遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告第53集